



水が恋しくなる七月、毎年このころになると、悲惨な子供の水の事故が目立って増えます。水の事故は、一年中起きています。とくに六、七月が多く、昨年は全国で五百七十六人の子供（中学生以下）が尊い命を落とされています。これは、同じ六、七月の子供の交通事故死者四百四十四人を百六十二人も上回っており、いかに「水の犠牲者」が多いかを物語っています。

子供たちの水の事故は、ほんのちよつとしたスキに起こります。例えば、親が立ち話に夢中になっている間に、防火用水にはまってしまうたというようなケースもあります。とくに、幼児は自分で「危険」かどうか判断できませんので、保護者は子供の身になって、安全を考えてあげてください。子供を水の事故から守るために、次のような点に注意しましょう。◎子供たちだけで水泳や水遊びに行かないように、ふだんから注意する。行くときは保護者などが同伴する。◎危険な水辺で遊んでいる子を見



かけたら声をかけ、安全な場所まで遊ばう注意する。◎雨降りの後など川や用水が増水しているときは、子供を近づけないように特に注意する。

夏の交通安全市民総ぐるみ運動

7月16日～25日

七月十六日から二十五日までの十日間、夏の交通安全市民総ぐるみ運動が繰り広げられます。

この運動は、夏休み中の子供の交通事故防止を中心に行うとともに、行楽客による交通混雑、暑さのための過労運転などによる交通事故が多発するため、市民総ぐるみでこれを防止しようとするものです。

七月は八月と並んで、一年のうちで最も交通事故の多い月です。痛ましい犠牲者を一人でも出さないためにも、市民一人一人が交通安全思想を身につけ、正しい交通ルールを実践するこ

とが大切です。今回の重点目標は、次のとおりです。

夏休みの生活

子供の特性に応じた具体的なルール指導を

うつつという梅雨が明けると、子供たちにとって待ちに待った夏休みが始まります。

学校を中心とした規則的な生活から解放されるために、せっかくな身についた交通安全のルールも、とかく忘れがち、例年、夏休み中に交通事故にあう子供が増える傾向にあるのも、そのためです。夏休みを楽しく安全に過ごし、

- ◎子供と老人の交通事故防止
- ◎過労運転の防止

元気に二学期を迎えることができるように、交通事故には特に気を付けましょう。

そのためにお母さん方は、次の点に十分注意してください。◎子供は一つのこと熱中すると、周りのことが目に入りません。たとえば、ふだん大切にしているボールなどを落とすと、車の往来など眼中になく、拾いに行こうとし

ます。道路を歩くときは、子供の手を離さないようにしましょう。◎子供は大人のまねをします。子供の前ではちよつとした「ルール違反」も禁物です。◎抽象的なことばで、ああしてはいけない、こうしてはいけないというよりも、具体的なケースを取り上げて指導しましょう。◎レジャー先など初めて通る道では、ふだんの生活で覚えた交通ルールが、うまく応用できるとは限りません。特に注意しましょう。◎子供は気分が変わりやすく、うれいときや悲しいときは、そのことで頭がいっぱいになり、他のことまで注意が行きとどかなくな

ります。子供の特性を知ることが大切です。

家庭の医療

夏は食中毒に

ご用心

〔食中毒の潜伏時間〕

食べてから症状があらわれるまでの時間は、短くて二時間、長いもので三日間といわれています。なかでも多いのは、十二時間から二十時間です。

〔吐き気、腹痛が起きたら〕

◎食後二～三時間で吐き気がするよう場合は、ぬるま湯や薄い食塩水をたくさん飲ませ、吐きやすくしてあげてください。幼児の場合は、鼻をつまんで口を開かせ、指を突っこんで吐かせます。

◎食後十時間以上もたつてからは、吐かせても効果はありません。食べたものはすでに胃で消化されてしまっているからです。安静に休ませておいて、すぐ医師に連絡してください。吐き気が激しい場合は、胃の部分を氷のうなどで冷やして、医師を待ちます。腹痛がするときには、痛むところをカイロなどで温めると痛みがやわらぎます。◎下剤やヒマシ油を飲ませ、食べたものを早く体外に出してしまおうとするのは、危険です。しろうと判断で処置をしないで、必ず医師の指示に従いましょう。